

## 施策等の数値目標の進行管理(実績値)について

### 1 施策等の数値目標

動物愛護管理に関わる施策について、9つの代表指標を設定して進行管理を行うこととしております。代表指標には、計画終期である平成35年度の「最終目標」を設定する他に、実情に即した的確な計画の進行管理を行うため、「中間目標」を設定しています。

### 2 代表指標の実績

代表指標	基準値 (H18年度実績)	H25年度実績	H26年11月末 中間実績	H30年度 中間目標	H35年度 最終目標
①犬の引取り数	944頭	445頭	274頭	400頭以下	230頭以下
②猫の引取り数	4,031匹	3,335匹	2,675匹	2,000匹以下	1,000匹以下
③狂犬病予防注射実施率	77.7%	74.5%	69.3%	100%	100%
④犬の捕獲頭数	2,229頭	1,003頭	658頭	850頭以下	550頭以下
⑤苦情処理件数	3,521件	2,313件	1,352件	1,500件以下	1,000件以下
⑥犬の殺処分数	944頭	474頭	318頭	600頭以下	600頭以下
⑦猫の殺処分数	4,031匹	3,063匹	2,420匹	2,000匹以下	1,000匹以下
⑧動物愛護ボランティア 登録者数	262名	336名	336名	400名	500名
⑨動物取扱業施設(特定 動物飼養施設を含む)に おける違反件数	0件	0件	0件	0件	0件

### 3 代表指標の進捗状況(概要)

①犬の引取り数、④犬の捕獲数、⑥犬の殺処分数等、目標値に近い値で推移している施策については、引き続き、しつけ方教室や各種広報媒体をとおして犬の適正飼養の啓発をしながら進行管理していきます。

一方、②猫の引取り数、⑦猫の殺処分数等、目標値から離れた値で推移している施策については、今後、引取りの際の飼い主への説諭や、市町村、獣医師会、ボランティア等関係機関と連携した猫の適正飼養の啓発をより一層推進していきます。

【代表指標】

- ① 犬の引取数
- ② 猫の引取数

【H25年度実績】

445頭  
3,335匹

【H30年度中間目標値】

400頭以下  
2,000匹以下

【H35年度最終目標値】

230頭以下  
1,000匹以下

〈参考:平成25年度犬、猫の引取数内訳〉

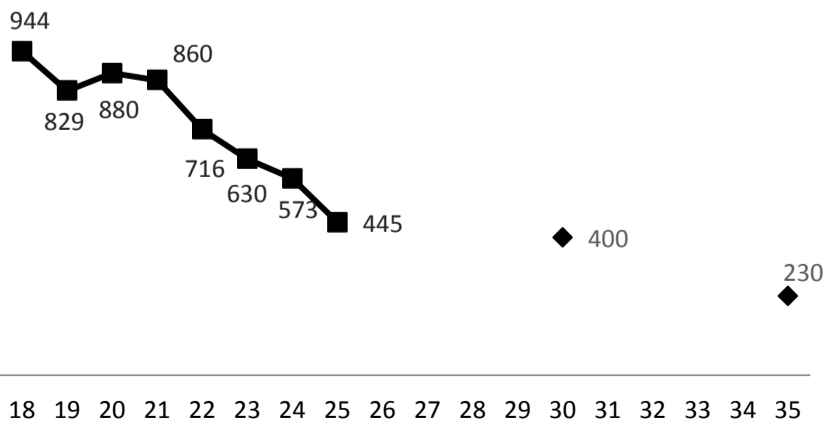
総数 445頭	動愛法第35条第1項※(成犬)	180頭
	動愛法第35条第1項(子犬)	72頭
	動愛法第35条第3項(負傷犬含む)	193頭
総数 3,335匹	動愛法第35条第1項(成猫)	240匹
	動愛法第35条第1項(子猫)	427匹
	動愛法第35条第3項※ (成猫・負傷猫を含む)	395匹
	動愛法第35条第3項 (子猫・負傷猫を含む)	2,273匹

※動愛法第35条第1項:所有者からの引取  
動愛法第35条第3項:所有者不明の引取

目 標	終生飼養や繁殖制限措置及び所有者明示等の飼い主責任を徹底する意識の向上に努めることにより、飼い主からの引取数及び所有者明示がされていない迷い猫や飼い主のいない子犬や子猫の拾得者からの引取数を削減します。
主な取組	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○ 適正飼養の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終生飼養の徹底</li> <li>・繁殖制限措置の必要性について啓発(不妊・去勢手術の実施)</li> <li>・名札、マイクロチップ等の所有者明示措置の普及</li> <li>・猫の屋内飼育の徹底</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○ 連携と協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物愛護ボランティアとの連携</li> <li>・獣医師会等関係団体との連携</li> <li>・市町村との連携</li> </ul> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>マイクログリップ 推進への取組</p> <p>地域猫対策</p> </div>
現状と今後の課題	<p>犬及び猫の引取数は、年々減少傾向を示し、平成25年度の犬の引取数については、平成30年度中間目標値に近い数値となっています。</p> <p>一方、猫の引取数については、依然として目標値を大きく上回る状況であり、特に、所有者不明の子猫(離乳前)の引取数については、2,273匹と全体の約7割を占めています。</p> <p>今後は、引取数を減らすため、飼い主責任を徹底する意識の向上のための普及啓発に取り組むとともに、動物愛護ボランティアや獣医師会等関係団体との連携を図り、地域猫対策等、飼い主のいない猫対策について検討することが課題となっています。</p>

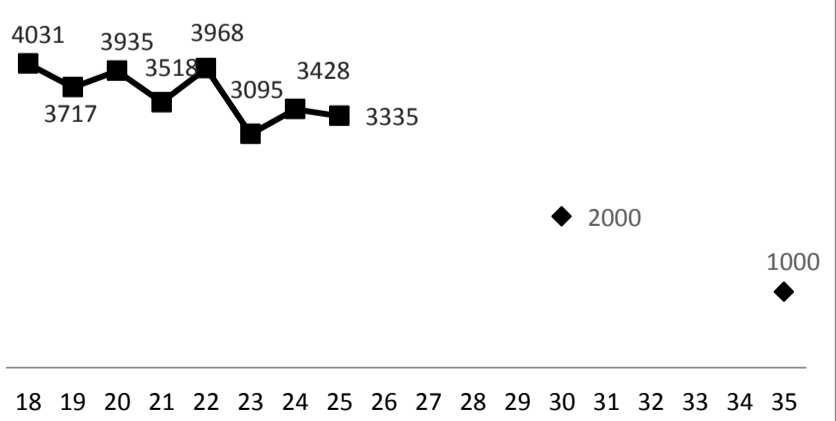
犬引取数

◆ 目標 □ 実績



猫引取数

◆ 目標 □ 実績



【代表指標】

③ 狂犬病予防注射実施率

【H25年度実績】

74.5%

【H30年度中間目標値】

100%

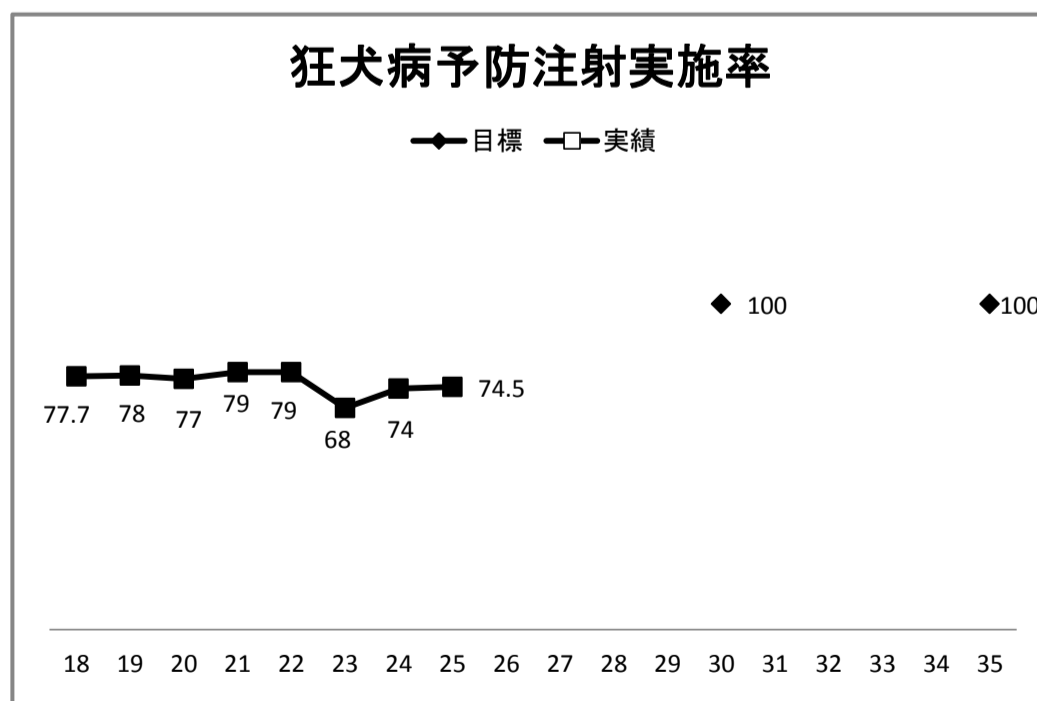
【H35年度最終目標値】

100%

〈参考

:平成25年度犬の登録頭数 7,824頭〉

目 標	近隣諸国においては、未だ狂犬病が発生し、毎年多くの死者が発生していることから、万が一、日本国内に狂犬病が侵入した場合に備え、100%の狂犬病予防注射実施率を目標とします。
主な取組	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>○ 市町村との連携</p> <p>↓</p> <p>□ 犬の登録及び狂犬病予防注射実施を推進するための広報活動 ・啓発用チラシの配布 ・集合注射時の広報車での広報</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>○ 獣医師会との連携</p> <p>↓</p> <p>□ 動物病院における飼い主への啓発 ・啓発用チラシの配布</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>○ 動物取扱業所の意識の向上</p> <p>↓</p> <p>□ 犬の販売時における適切な情報提供 ・啓発用チラシの配布</p> </div> </div>
現状と今後の課題	<p>万が一、日本国内に狂犬病が侵入した場合、国内でのまん延を防止するためには予防注射実施率70%以上を確保する必要があると言われており(WHOガイドライン)、平成25年度においては、注射実施率74.5%と、かろうじてその水準を確保しています。</p> <p>また、未登録の犬を無くすため、市町村における集合注射時の広報活動や啓発チラシの配布などの広報活動を実施するとともに、動物病院やペットショップにおける飼い主への適切な情報提供が実施されるよう働きかけます。</p>



【代表指標】

- ④ 犬の捕獲頭数
- ⑤ 犬の苦情件数

【H25年度実績】

1,003頭  
2,313件

【H30年度中間目標値】

850頭以下  
1,500件以下

【H35年度最終目標値】

550頭以下  
1,000件以下

〈参考：平成25年度犬の苦情内訳〉

放浪犬 728件	啼き声 139件
迷い犬 588件	糞の不始末 60件
放し飼い 541件	捨て犬 58件

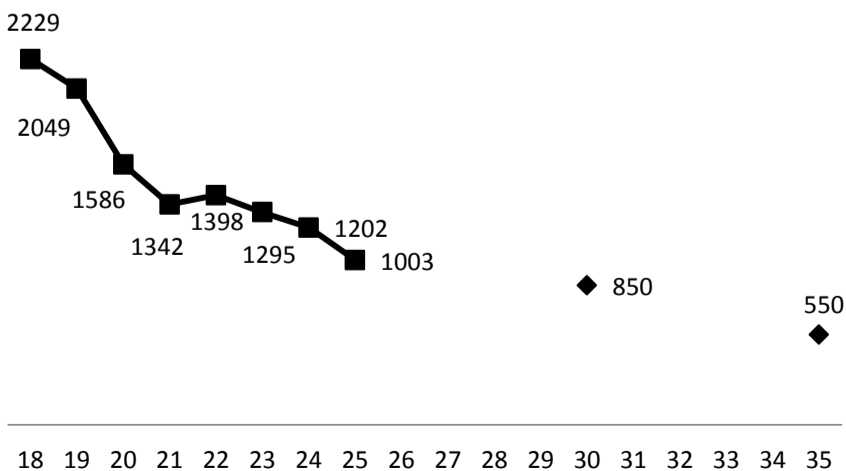
〈参考：平成25年度犬の返還頭数〉

474頭(返還率:47.3%)

目 標	<p>飼い主への適正飼養の普及啓発を推進し、捕獲頭数や苦情件数を削減することにより、犬による危害の防止に努め、人と動物の調和ある共生を推進します。</p>
主な取組	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○ 適正飼養の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼い主の意識の向上</li> <li>・終生飼養の徹底(遺棄の防止)</li> <li>・繁殖制限措置の必要性について啓発(不妊・去勢手術の実施)</li> <li>・名札、マイクロチップ等の所有者明示措置の普及</li> <li>・逸走防止</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>各種、動物愛護関係事業の機会をとらえて、啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼い犬等のしつけ方教室</li> <li>・小学校への獣医師派遣事業</li> <li>・動物愛護のつどい</li> <li>・譲渡事業</li> </ul> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;"> <p>○ 獣医師会との連携</p> <p>↓</p> <p>○ 動物取扱業者の意識の向上</p> <p>↓</p> <p>□ 犬販売時における適切な情報提供</p> </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>○ 動物愛護ボランティアとの連携</p> <p>←</p> <p>マイクロチップ推進への取組</p> </div> </div>
現状と今後の課題	<p>犬の捕獲頭数は、年々減少傾向ではあるが、明らかに飼い主がいると思われるにも関わらず、飼い主に返還されないケースが多い現状であり、捕獲抑留された1,003頭の犬のうち、飼い主に返還されたのは474頭で、返還率は47.3%にとどまっています。</p> <p>今後は、終生飼養等の適正飼育の普及啓発に努めるとともに、確実な返還を推進するため、名札やマイクロチップ等の所有者明示の徹底に努めます。</p> <p>一方、犬の苦情処理件数については、依然として多い状況にあり、迷い犬、放し飼い、放浪犬等飼い主の不適切な管理に因るものが多いことから、今後も、各種動物愛護関係事業の機会をとらえて、啓発に努めます。</p>

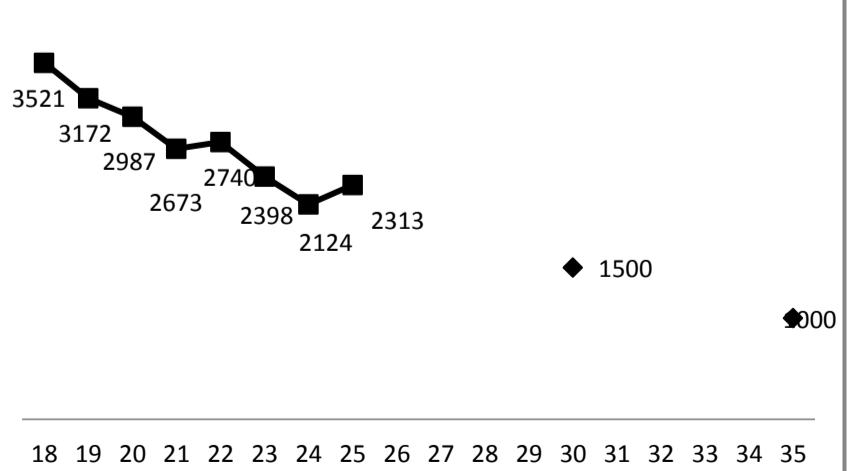
犬捕獲数

◆ 目標 □ 実績



犬苦情件数

◆ 目標 □ 実績



【代表指標】

- ⑥ 犬の殺処分数
- ⑦ 猫の殺処分数

【H25年度実績】

474頭  
3,063匹

【H30年度中間目標値】

600頭以下  
2,000匹以下

【H35年度最終目標値】

600頭以下  
1,000匹以下

〈参考：犬、猫の殺処分の内訳〉

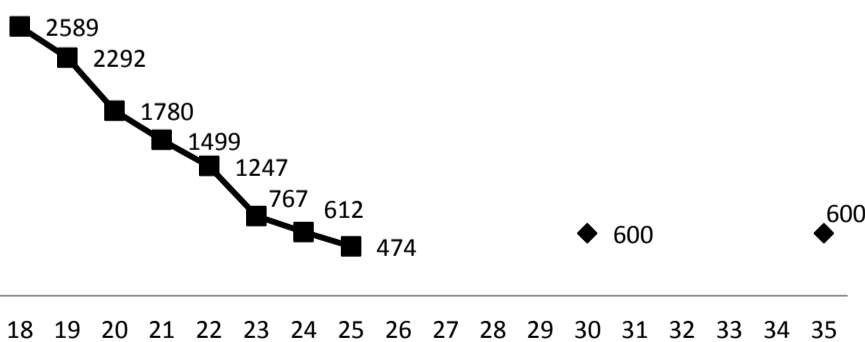
犬の殺処分数：474頭		猫の殺処分数：3,063匹	
狂犬病予防法第6条第1項※	192頭	動愛法第35条第1項(成猫)	234匹
動愛法第35条第1項(成犬)	160頭	動愛法第35条第1項(子猫)	403匹
動愛法第35条第1項(子犬)	36頭	動愛法第25条第3項(成猫)	375匹
動愛法第35条第3項	86頭	動愛法第35条第3項(子猫)	2051匹

※：捕獲犬

目 標	<p>捕獲犬の返還及び譲渡を推進し、殺処分数を削減します。 また、終生飼養や繁殖制限措置及び猫の屋内飼育等の徹底により、引取数を削減するとともに、引き取った犬猫の譲渡を推進し、殺処分を削減します。</p>
主な取組	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>○ 引取数の削減</p> </div> <div style="width: 35%;"> <p>○ 適正飼養の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終生飼養の徹底</li> <li>・繁殖制限措置の必要性について啓発(不妊・去勢手術の実施)</li> <li>・名札、マイクロチップ等の所有者明示措置の普及</li> <li>・猫の屋内飼育の徹底</li> <li>・逸走防止</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p>○ 連携と協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・獣医師会との連携</li> <li>・動物愛護ボランティアとの連携</li> <li>・市町村との連携</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div>
現状と今後の課題	<p>犬の殺処分数については、年々減少傾向を示しており、今後も引き続き、收容された犬が確実に返還されるよう、所有者明示の徹底に努めるとともに、ホームページを活用した收容動物の情報発信に努めます。 なお、平成25年度の犬の殺処分数が中間目標値以下に減少していることから、平成26年度以降の実績を踏まえて、目標値の見直しを検討します。 一方、猫については、依然としてかなりの匹数が殺処分されており、その約8割が飼い主のいない猫であることから、無責任な餌やり防止の徹底や地域猫対策等の検討が課題である。</p>

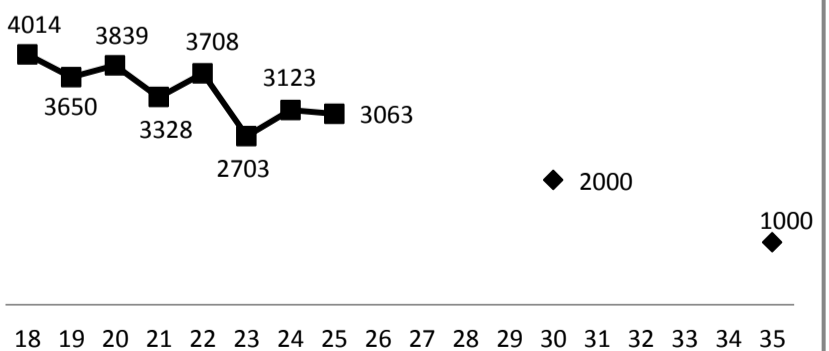
犬の殺処分数

◆ 目標 □ 実績



猫の殺処分数

◆ 目標 □ 実績



【代表指標】

⑧ 動物愛護ボランティア登録者数

【H25年度実績】

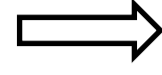
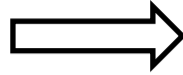
336名

【H30年度中間目標値】

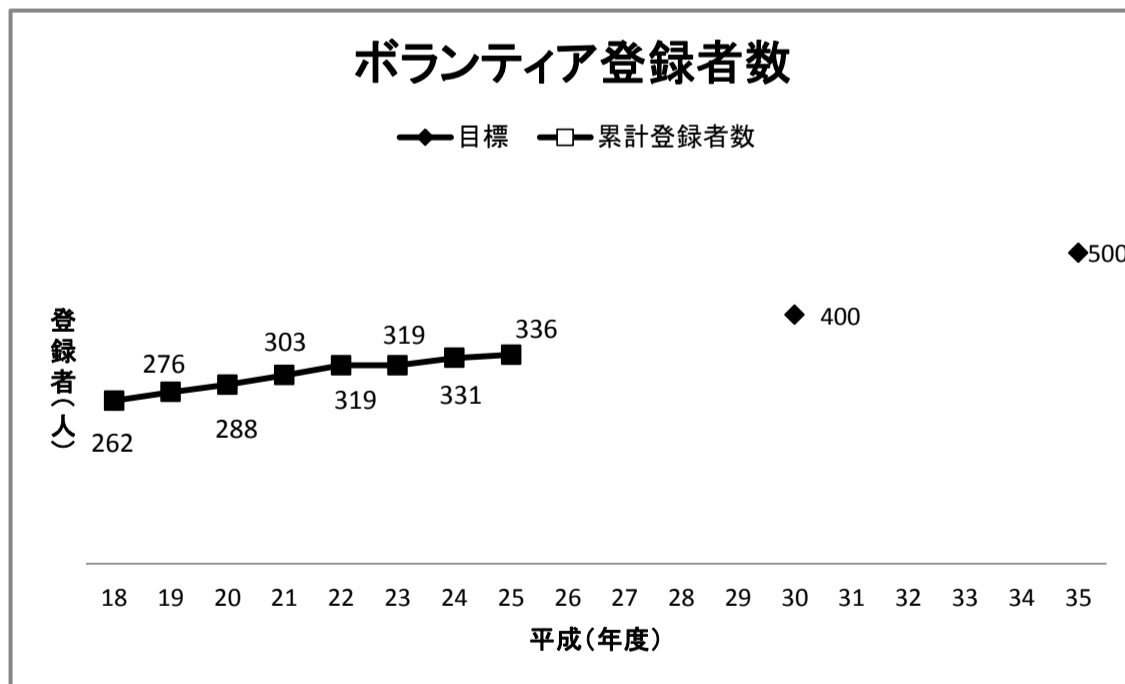
400名

【H35年度最終目標値】

500名



目 標	動物愛護関係法令、動物由来感染症及びしつけ方の基本等についての講習によりボランティアを育成し、地域における動物の愛護と適正飼養を普及啓発する担い手としての活動を支援します。
主な取組	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○ 動物愛護ボランティアの育成と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物愛護ボランティア育成講習会の開催</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>□ 各種、動物愛護関係事業への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼い犬のしつけ方教室</li> <li>・小学校への獣医師派遣事業</li> <li>・動物愛護のつどい</li> <li>・犬及び猫の譲渡事業</li> </ul> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>動物愛護ボランティアの自主活動の支援</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p>○ 民間(個人)ボランティア</p> <p style="text-align: center;">●●●●●</p> <p style="text-align: center;">連 携</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>□ 犬・猫の譲渡</p> <p>□ 地域猫対策など飼い主のいない猫の対策</p> </div> </div>
現状と今後の課題	<p>動物の愛護及び適正飼養を普及啓発し、犬猫の引取頭数及び殺処分数の削減等、各代表指標の目標を達成するためにも、しつけ方教室受講者等を対象に講習会を開催し、動物愛護ボランティアを育成しています。現在、当該ボランティアの活動の一つとして、県の動物愛護管理事業に協力をいただいておりますが、今後は、自主的活動の支援が課題となっています。</p> <p>また、犬猫の殺処分数を削減するための、譲渡事業の推進や地域猫対策などの実施には、個人又は団体の民間ボランティアとの連携も重要と思われることから、今後、検討する必要があります。</p>



【代表指標】

⑨ 動物取扱業施設(特定動物飼養施設を含む)における違反件数

【H25年度実績】

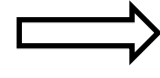
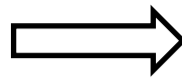
0件

【H30年度中間目標値】

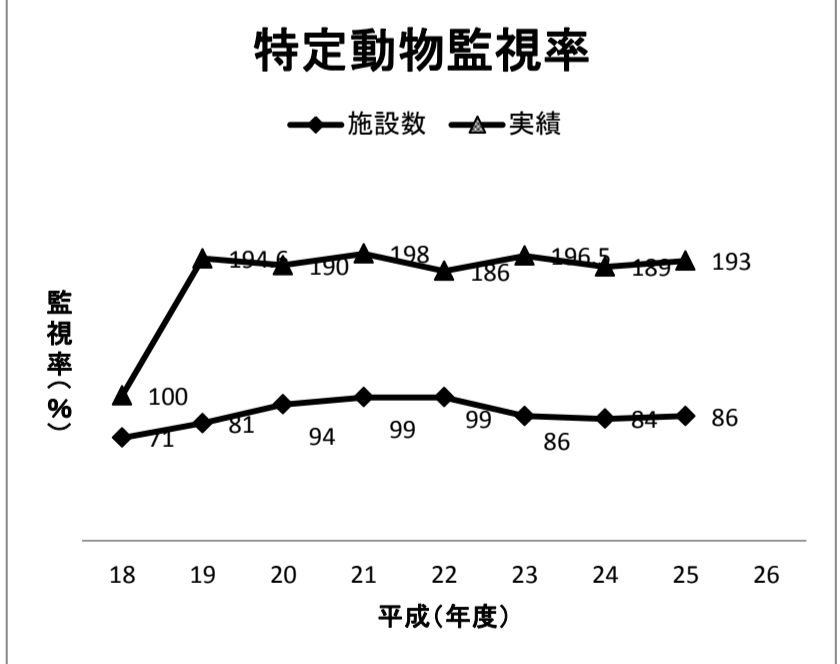
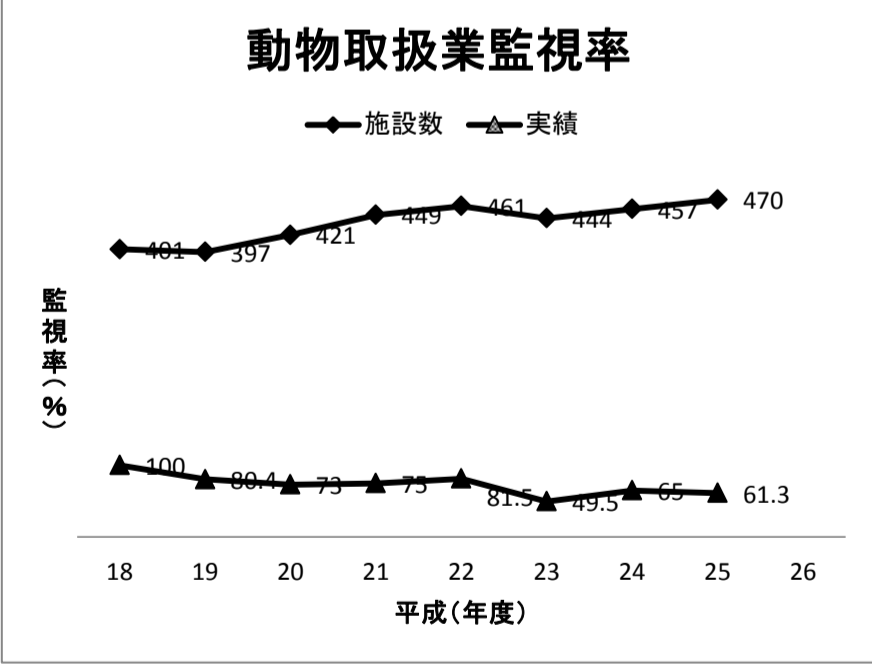
0件

【H35年度最終目標値】

0件



目 標	<p>これまでも動物取扱業施設(特定動物飼養施設)における違反は発生していませんが、動物愛護管理法の改正により、事業者への規制が強化されたことから、今後も、違反が行われないよう監視・指導を徹底します。</p>
主な取組	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○ 動物取扱業者の意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「犬猫等健康安全計画」の策定及び遵守</li> <li>・動物の適正管理を確保するための飼養施設等の整備及び管理</li> <li>・獣医師等との連携の確保</li> <li>・幼齢動物の販売制限等の徹底</li> <li>・対面説明、現物確認の徹底</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>□ 監視指導の徹底:帳簿の確認 □ 動物取扱責任者研修会の開催</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○ 特定動物飼養者の意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物による人への危害防止対策の徹底</li> <li>・動物飼養施設等の整備及び適正管理</li> <li>・動物の遺棄・虐待防止</li> <li>・逸走防止</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>□ 監視指導の徹底:逸走防止対策の確認</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">→ 動物の遺棄・虐待の防止</p>
現状と今後の課題	<p>動物の安易な購入や無責任な飼い主による動物の飼養を防止するためにも、動物取扱業者の社会的責任は大きく、犬猫等販売業者における、販売時の対面説明の徹底など、事業者の意識の向上を図るため、定期的な監視指導を徹底します。</p> <p>また、昨年、全国各地で発生したブリーダーによる犬の遺棄を未然に防止するためにも、立入時における個体管理の帳簿類の確認や、定期報告の徹底を図ります。</p>

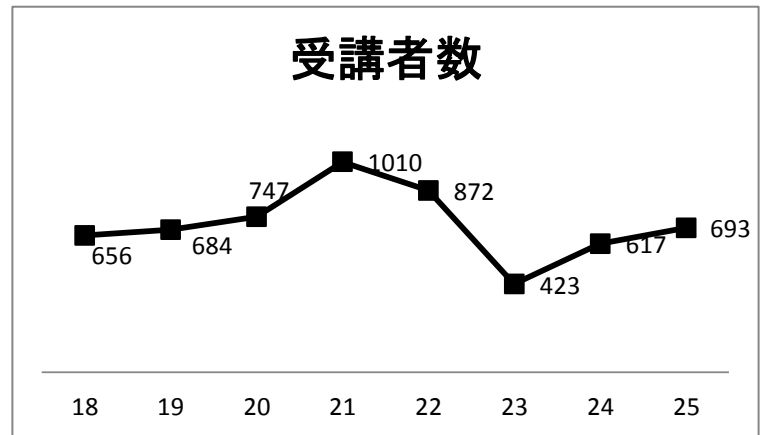
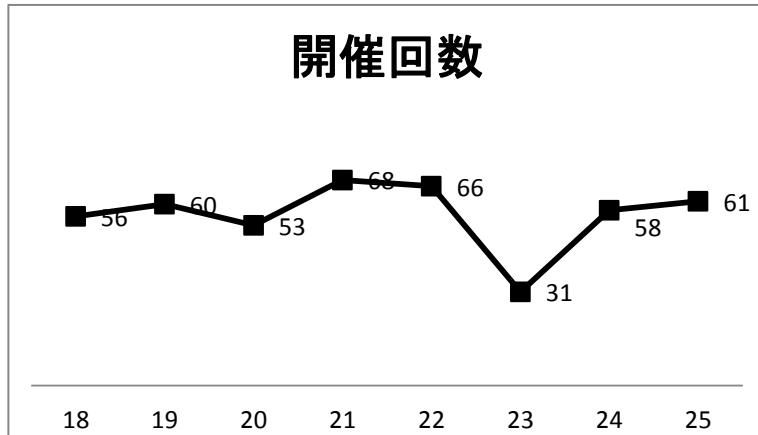


〈参考:犬の大量遺棄事件〉

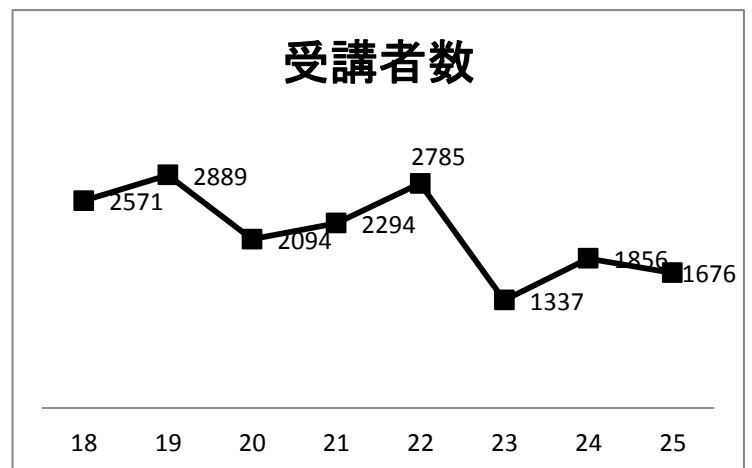
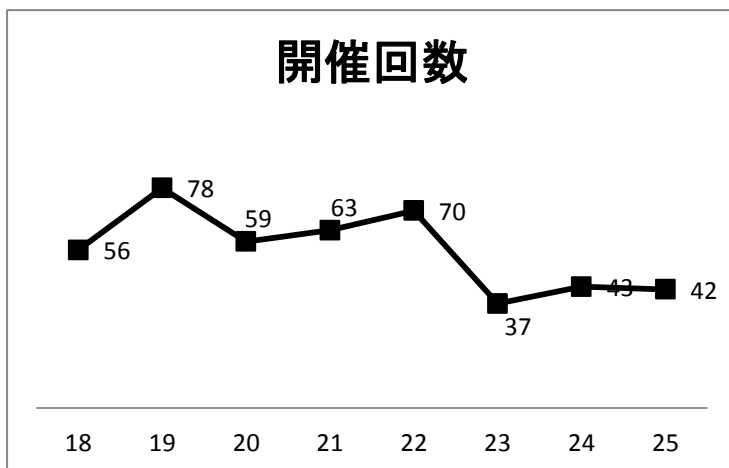
自治体名	発生年月	内容
埼玉県さいたま市	H25.10~H26.7	46頭(生存43, 死骸3)
山梨県南アルプス市	H26.3~4	39頭(生存39)
群馬県高崎市	H26.4~8	11頭(生存11)
栃木県さくら市等	H26.7~11	103頭(生存32, 死骸71)
佐賀県佐賀市	H26.10~11	19頭(生存19)

(出典:2014.11.14読売新聞)

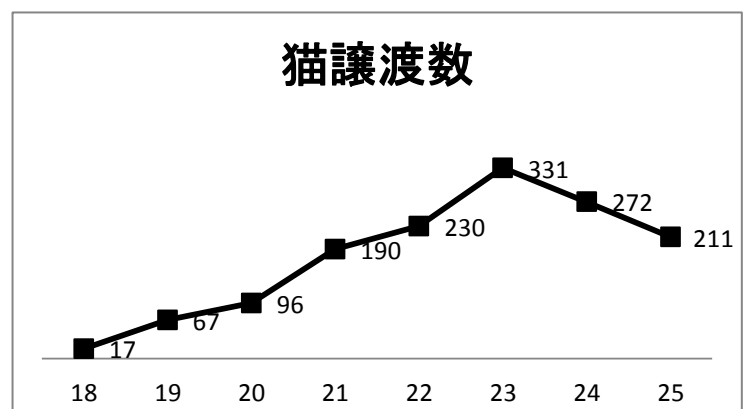
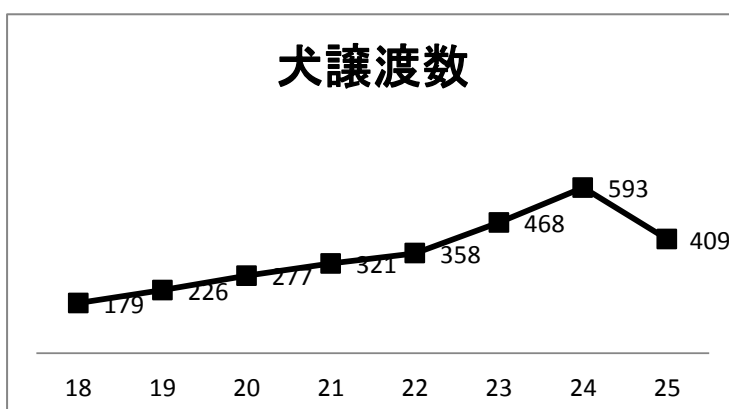
事業名	実施結果	
飼い犬等のしつけ方教室	事業の目的	犬やねこの飼い主にしつけの方法や飼養管理に関する知識等を習得させることにより、人と動物の共生の推進を図る。
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日及び開催回数等の検討:休日や夏休み期間中の開催</li> <li>・効果的な広報・周知:ホームページや市町村広報紙等の活用</li> <li>・担当職員の知識や技術の向上:研修会等への参加</li> </ul>



事業名	実施結果	
小学校への獣医師派遣事業	事業の目的	各保健福祉事務所の獣医師を小学校に派遣し、学校飼育動物や犬猫などの身近な動物の飼い方の講話や動物を用いたふれあいを実施することにより、児童期からの動物愛護教育の充実を図ります。
	今後の課題	今後も、動物愛護ボランティア及び獣医師会と連携協力して事業を実施します。



事業名	実施結果	
犬及び猫の譲渡事業	事業の目的	保健所に収容された犬及び猫に生きる機会を与え犬等の殺処分数の削減を図ります。
	今後の課題	ホームページや各種メディアを活用し、広く譲渡事業に関する情報を発信します。また、定期的に譲渡会を開催し、県民の関心と理解を深めます。





〈参考：平成25年度犬猫の譲渡数内訳〉

犬：409頭	成犬：288頭	狂犬病予防法第6条第1項	274頭
		動愛法第35条第1項	14頭
	子犬：121頭	動愛法第35条第1項	28頭
		動愛法第35条第3項	93頭
猫：211匹	成猫：14匹	動愛法第35条第1項	1匹
		動愛法第35条第3項	13匹
	子猫：197匹	動愛法第35条第1項	23匹
		動愛法第35条第3項	176匹